

【プログラム紹介】
犬とふれあおう！



セラピー犬“りくちゃん”とブリーダーの芦澤さん（当院の看護師）によるプログラム「犬とふれあおう」を開催しました。プログラムが始まると“りくちゃん”は、メンバーの手の届く範囲をゆっくりゆっくり、と歩き始めました。はしゃいだりもせず大人しく寄り添い、時には歩みを止めて、眠ってしまいそうに腹這いにもなりながら。

いきものとの触れ合いは、ストレスを忘れたり、日々の緊張をほぐす働きがあるといます。メンバーは、手の届くところに寄り添う“りくちゃん”と触れ合うことで、ほっとしたり、犬肌（？）に触れ「あったかい」と感想を述べていました。

下記は、芦澤さんの言葉です。

ラブラドルのくりくを迎えて、一緒に生活していく中でくりくの体温・表情・しぐさに触れ、人には得られない癒しと気持ちの安心感を感じました。

くりくは、人が好きで、撫でられるのが好き！くりくの性格や能力がセラピーに適していると感じ、一緒に学んで今があります。

くりくと接する時間、何も考えずリラックス出来る。時には一緒にウトウト昼寝と言う時間も良いでしょう。

そんな一時を過ごして、デイケアに来る楽しみになっていただけたらと思います。

メンバーインタビュー
【犬とふれあおう！】に参加して…

参加したのは、4～5回目だと思います。一番最初のころに、レトリバーだと聞いて、黒い犬だったので1人断念しておりました。レトリバーは、黄色だと思っていたからです。腹を擦ると思ったよりお腹がかたい、筋肉なんだと思いました。そのとき、とにかく賢い犬だな、と。犬は、全般賢いと思います。忠犬ハチ公から伺われるように教えればそれなりの動作をするじゃありませんか。そんなところですよ。洋服を着ているじゃありませんか。誰が思いついたのかな、と。ワンちゃんでも子犬、ポニーテールみたいなのは、好きではないです。チワワとかあんまり。レトリバーは、でかくなりますよね。あまり大きいと困ってしまう。犬の種類をしりませんが、あれで大きくなれば良いと思います。

レトリバーに関しては、ある小説を読んだことがありました。それは海外の小説でしてサイエンス・フィクションなのですが翻訳されています。小説は、D. R. クーンズの『ストレンジジャズ』という作品です。その本には、アインシュタインという名前のレトリバーが出てきまして、黄色いレトリバーのイメージがオーバーラップしていました。

<オーバーラップ><想起><トリガー>については意識して出るように無い頭を使って頑張っているつもりなのです。例えば数字の「1」を「ひとつの『ひ』」、数字をひらがな変換して「1549（いご、よく）来る宣教師」とか。そういうのがないと絶対に忘れますから。ブルーバックで元素周期表のランタノイド系やアクチノイド系とか出てきます。私は、そういうのが好きなのです。

閑話休題ですが海馬がありますよね。私は、側頭葉てんかんと言われていて、側頭葉と海馬の間を記憶が回ります。情けないことですが、夜にグループホームで「今日、昼間、何の食事を食べましたか？」と聞かれると出てこないことが度々あります。それで、<ひっかかり><トリガー>を作って、すぐに答えを出せるように、まあ、そういう風にやっているつもりなんです。

デイケア利用の流れ

